

～ 岩手 被災地ボランティア活動 ～

〈第3期第1陣〉12月3日～9日 支所職員など8名



(写真後列)野田さん、(左端)松島さん、
(中段右端)清水さん、(下段右端)白石さん

横山さん(人事総務部)、中倉さん(商品部)、武吉さん(ベジタブルセンター)、
斉藤さん(運営部)、白石さん(運営部)、野田さん(店舗部)、清水さん(店舗部)、松島さん

組合員さんに『冬
物衣料の募金』を
してもらいメッセー
ジカードと一緒に直
接手渡しすること
ができ、「ありがと
う」と涙ながらに
被災者の方に言わ
れました。組合員
さんの気持ちを渡
せたこの嬉しさを、
配送現場で組合員
さんに報告していき
たいです。
(12月5日陸前高田
市 寝屋川支所で寝
屋川市の配送担当・
松島さん)

みんなで元気に
ならないとね

〈第3期〔クリスマス支援〕〉12月21日～25日

職員9名

新谷さん(システム経理部)、永岡さん(人事教育部)、蛭子さん(人事教育部)、
鶴田さん(商品検査室)、坂口さん(商品部)、増田さん(開発部)、
阪本さん(理事会室)、山西さん(開発部)、勝本さん



人から元氣にならないと、子ど
もが大人の顔色見て生活して
いるのよ。みんな元氣になら
ないとね」とお聞きしました。
(サンタの格好でお
届けに参加した共済
チーム・勝本さん)



(12月24日
陸前高田市)

クリスマス
スイベント
で地元の方
に「周りに
亡くなられ
た方もいる
けれど、大

「福島の子ども保養プロジェクト」 支援募金のお願い



福島県生活協同組合連合会では、休日などを利用し、放射線量の心配のない地域に行き、子どもたちが十分に外遊びできる企画、保護者の疲れを癒す企画、受け入れ地域の方々との交流する企画等を実施していきます。

のびのびと遊ぶ子どもたちの笑顔を取り戻すために、組合員の皆様の支援をお願いします。

募金実施期間：2月3回(1/30～2/3配布)～
3月1回(2/20～2/24配布)

注 文 番 号：001418 (6ケタ注文番号)
※「1」と記入すると100円の募金になります。

募金は日本生協連を通して、福島県生協連にお渡しします。
店舗・組合員会館は、募金箱を設置します(2月中)。

次週配布の別チラシにも詳細を載せています。

「東日本大震災救援募金」にご協力ありがとうございます ～第6回の送金を行いました～

組合員さんよりお預かりした募金170,071円を、第6回目の募金の送金として、1月10日に日本生協連にお渡ししました。募金は日本生協連で集約し、各県の生協連合会から行政を通じ、被災者のみなさまへ届けられます。5回目までとあわせて、累計約8,673万円になりました。
※なおこの募金は、2月4回(2/6～2/10配布)で一旦終了いたします。

〈第3期第2陣〉12月10日～17日

支所職員など7名(内よどがわ生協の方2名)

岡さん(寝屋川支所で交野市の配送担当)、長壁さん(くらしと協同研究所)、
中尾さん(物流センター)、袋井さん(KCS)、藤田さん(よどがわ生協)、
平尾さん(よどがわ生協)、吉田さん



(12月13日 店舗部・
吉田さん)

大槌町赤浜地区では、仮設ではあるが番屋(漁師さんが漁を終えて休憩する場所)ができて少しずつ仕事が始まっていました。今後の展望を持って生きていくための仕事作り・街作りが急務になってきていると感じました。



先週、半纏をお届けしたお宅に頼まれていたものを持ってお邪魔しました。「暖かくて手放せないの」とおっしゃっていました
(12月12日 小鉾町)



NO.9

被災者に寄り添い、 絆をつなげる支援活動を

遠野まごころネット

被災後はじめての新年を迎えました。遠野まごころネットの活動は越年ボランティアの約50名が1月6日から、パルコープのボランティア(物資班)も9日から現地活動を再開しました。

昨年末は、「サンタが100人やってきた!プロジェクト」(実際は400人のサンタとトナカイが集まる)や餅つき会を仮設住宅や在宅避難者の方々と一緒にとりくみました。大晦日には、独り暮らしの方々と一緒に仮設住宅の集会所で紅白歌合戦を見る会を開いた地域もありました。

被災地では寒い毎日が続き、独りで部屋に閉じこもりがちです。お茶っこ会や手芸などで出かけるきっかけづくり、冬物衣料や野菜などをお届けしながら「お元気ですか…」と声をかけ合う活動を地道に続けています。

(NPO遠野まごころネットに常駐する事務局・林さんより)



年末年始「炊き出し」ボランティア

私にできるお手伝いを させていただきたいと

～ 参加された組合員ボランティアの感想文より ～

何も無い風景を見てあらためて津波の恐ろしさを知りました。テレビなどで見る炊き出しは、人数の多い所が優先されるみたいで「うちにはめったに來ないので嬉しい」とおっしゃってくれました。あまり外に出る機会がなくこもりがちだともおっしゃいました。また機会があれば参加したいです。

(城東区・奥井達也さん 大学生)

このボランティアで現地の方々とお話ができ、本当にうれしく思っています。まだ大人になりかけの私に被災した時の体験談を自ら話してくれたおばあさんもいて、本当に参加してよかったと思います。「私はこの年でこんな経験ができた。よし、後世に語り継ぐ」という気にさせてくれる機会になりました。

(枚方市・斉藤華子さん 中学生)

ボランティアは、ほんの少しでも陸前高田のためにとの思いで集まった年齢も性別も様々なメンバーでした。スムーズにいくようにダンボールの切れ端でかわいい看板を作る人や、幼児を肩車して元気いっぱい声をかけて一緒に遊ぶ青年や、めいめいがそれぞれの色で思いをひとつにして取り組みました。

仮設住宅の集会室前でおばあちゃんや子どもたちと食べた力二汁の味は決して忘れないでしょう。

(西区・石田貴朗さん)

炊き出しするにあたり、いわて生協さんの前準備があつてできたことでした。私たちはおいしいとこどりのボランティアでしたが、

被災された方々に少しでも近づけたらとの思いがかないました。今回見てきた三陸を思い続け、もっと勉強して私にできるお手伝いをさせていただきたいと、また強く思いました。

(城東区・藤岡桂子さん)

自治会長さんのお話で「仮設の住民は、これまでの支援は有りがたく受けている。悔しいがそれに応えて返すモノすら持っていない。きつと我々は復興する。その時には是非こちら東北にお越しいただきたい。その時こそ充分なモノとココロでお返ししたい」と述べられた時は思わず目が潤んだ。3・11以来、自分が貢献できるスキルが何も無いと悶々としていた自分にも、やれることはまだまだ有る。

(四條畷市・鷲尾孝義さん66歳)



◆ 新年に復興を願って ◆

津波と火災で、小鉾神社の回りは何もなくなりました。震災で職をなくし、全国に散らばった若者たちが、大晦日、故郷の神社に戻り抱き合う姿がありました。地元の男衆も少なくなつた人手で、町の伝統の虎舞を踊り、復興を祈願していました。



59名の組合員ボランティアと事務局職員などが12月28日の夜行バスで15時間かけて岩手県へ。グループに分かれて2日間のボランティアを。